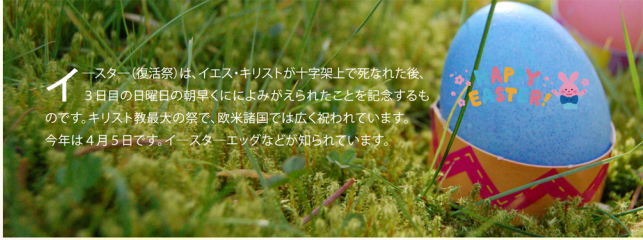

イースター（復活祭）は、イエス・キリストが十字架上で死なれた後、3日目の日曜日の朝早くによみがえられたことを記念するものです。キリスト教最大の祭で、欧米諸国では広く祝われています。今年は4月5日です。イースターエッグなどが知られています。

悲しみから歓喜へ

聖書メッセージ

牧師　和田忠三

昔から、「人生に涙はつきもの」と言われてきました。嬉し涙や、感激や感動しての涙もあります。しかしほとんどは、悲しみや後悔や悔し涙などであり、多くの歌の題材にもなってきました。聖書にも多くの涙の場面がありますが、その1つを紹介します。

ある日曜日の朝のできごと

ある日曜日の早朝、まだ夜が明けてない暗がりの墓場で、1人の女性が絶望の涙を流していました。悲しみと絶望で時間が止まったかのように、ただ泣いていました。

彼女は、マグダラのマリヤ。かつて7つの悪霊に支配され、苦しみもがいていました。そんなマリヤは、イエス・キリスト（以降はイエス）によって悪霊から解放されて自由となり、喜びと感謝にあふれてイエスに従っていました。マリヤにとってイエスは、このうえない恩人であり、尊敬する師でした。

ところが、そのイエスが突然捕えられて金曜日に、2人の強盗と一緒に十字架に掛けられて死んでしまったのです。マリヤは、耐え難い悲しみの中にもその場に留まって、イエスが墓に葬られるのを見届けました。せめて、しかばねに香料を塗り、腐敗を少しでも留めようと思ったのです。

当時のユダヤのおきてに従って土曜日は休み、日曜日の朝早く墓場に行ったマリヤは、イエスの葬られた墓の前に立って仰天しました。何と、墓の入口を塞いでいた大きな石が、取り除けられていたのです。

驚いたマリヤは、急いでイエスの弟子の所に行き、事態を告げました。それを聞いた弟子たちは墓場に走って行き、中を確かめましたが、イエスのしかばねはなく、ふに落ちないままに帰って行きました。1人残ったマリヤは、落胆と絶望で泣き続けていたのです。

絶望から歓喜へ

突然、うしろから、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」と言われてふり向くと、1人の男が立っていました。マリヤは、その人が墓の番人と思い、「もしあなたが、あのかたを移したのでしたら、どこへ置いたか、どうぞ、おっしゃってください。わたしがそのかたを引き取ります」と願い出ました。

すると、「マリヤよ」と呼ばれたのです。驚いたマリヤはふり向いて、「先生」と叫びました。その人こそイエスだったのです。

それまでに何度も「マリヤよ」と呼ばれ、マリヤも「先生」と呼んできました。しかしこの時の、「マリヤよ」との呼びかけは、どれほどマリヤを驚かせ、歓喜の渦で包んだことでしょうか。落胆した絶望の涙を流していたマリヤは、瞬時にして歓喜にあふれたのです。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる（聖書）」との宣言をされていたイエスは、くり返し弟子たちに告げていた通り、死んで3日目によみがえられたのです。復活です。

信じる者に与えられる「復活」の希望

キリスト教の2大柱は、「イエス・キリストの十字架と復活」です。イエスご自身が復活されただけではなく、信じる者に「永遠の命」が与えられるのです。これはイエスの宣言であり、聖書の確かな約束です。この永遠の命は、今も与え続けられているのです。

あかし

挫折から得た新しい人生

高尾八洲雄

私は創業70年の印刷・出版の会社を29才で父から引き継ぎました。優良な得意先に恵まれ順調に過ごしたものの、厳しい競争社会のなかで、金銭的なことに最大の価値を持っていました。心のなかではいつも他人の評価を意識し、虚栄と傲慢の渦巻く不安な毎日を過ごしていたように思います。

平成7年（1995年）、阪神・淡路大震災で想像もしていなかった試練に遭いました。社屋が損壊、機械が壊れ、築後7年の自宅も半壊。再建のためあらゆる努力をしましたが、震災から4年後に倒産。今まで蓄えてきた物質的なものをすべて失いました。馬車馬のように働いた対象を無くして一挙に気力を失い、「従業員や家族に申し訳ない」「あの時ああしておけば」自分を責め続け、途方に暮れる失意の日々が続きました。

少し落ち着きを取り戻し、教会に行ってみたいという気持ちになりました。それは以前、自社で製作した聖書のことをもっと知りたいと考えていたからです。

勇気を出して、教会に足を踏み入れました。礼拝が始まり、賛美歌を聞いていると、不思議な体験をしました。それは、体中の力が抜けるような、心地良い解放感。「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます（マタイによる福音書11章28節）」という聖書のみ言葉を体験しました。

「自分の居場所を見つけた」そんな気持ちになり、これからも教会に通って聖書の学びを続けようと決めました。

毎週、礼拝の牧師先生によるわかり易いメッセージにより、ますます興味を引かれると同時に、心の変化をもたらせられました。

今までの自分がいかに傲慢で罪深いものであったか、思い知らされました。自己中心であるためにいかに周囲の人々を傷つけたか、イエス様を知らなかったら全く気がつかなかったことです。

そして、神様の存在に否定的だった私でしたが、イエス様を救い主と信じ、もっと学びを深めたいと思い、妻と共に57才にして洗礼を受けました。

それから10数年たちますが、毎週教会へ行くのが楽しみです。礼拝でのメッセージはいつも「喜び」と「勇気」を与えてくれます。そして教会のみなさんとの交わりも楽しみのひとつです。

これからも神様の教えから外れることなく、謙虚で穏やかな人生を歩んでいきたいと思っています。